

2300

14生化学的検査 I >> 14A . 内分泌学的検査

2016/7/1

ヒト脳性Na利尿ポリペプチド (BNP)



奈良県立医科大学
Nara Medical University

brain natriuretic polypeptide

基本情報

JLAC10	分析物	4Z271	ヒト脳性Na利尿ポリペプチド (BNP)	JLAC11 (暫定案)	測定物	H8039	ヒト脳性Na利尿ペプチド (BNP)
	識別				識別		
	材料	022	血漿		材料	242	血漿 (EDTA入り)
	測定法	051	化学・生物発光イムノアッセイ (CLIA)		測定法	4	ケミルミBNP

診療報酬	第2章 特掲診療料		第3部 検査(1)		第1節 検体検査料	
	第1款 検体検査実施料 (生化学的検査(II))					
	D008	内分泌学的検査				
	19	脳性Na利尿ペプチド (BNP)		136点		

検査オーダー・検体採取

患者同意に対する要求事項	
検査結果に影響を与える検査情報	溶血検体で低値になる。
オーダーボタン	検体検査 ⇒ 検体検査 ⇒ 内分泌検査 ⇒ 心臓・消化管・副腎髄質 ⇒ 心臓 ⇒ BNP
検査予約	16 時以降要連絡
至急オーダー	不可
時間外オーダー	無し
検査予約・オーダー	
患者の検査前準備	
検体採取のタイミング	

記号	添加物(キャップ色等)・採取容器	採取材料	採取量	測定材料	検体ラベル(単項目オーダー時)
053	EDTA-2K(紺)	◎血液	2mL	→血漿	31-9001 1 / 1 [1] イダイ タロウ 特 中 検 00001-2345-6 *****053*****  紺 053BNP 2.0 mL 採血後冷蔵保管 EDTA

採取容器について	
検体採取について	
検体搬送について	採取後ただちに搬送
病棟での検体保存方法	冷蔵保存(翌日提出不可)
再検査・追加検査の対応可能日数	検体採取当日のみ
検査不可検体について	サンプル不良・量不足・採取容器違い・保存状態不適切検体は測定不可

ヒト脳性Na利尿ポリペプチド (BNP)



奈良県立医科大学
Nara Medical University

brain natriuretic polypeptide

臨床情報

臨床的意義

カナダのde Boldがラット心房抽出液にNa利尿作用があることを報告し、その後それが心房性Na利尿ペプチド (atrial natriuretic peptid; ANP) であることが解明された。現在では心臓は血液を駆出するポンプ器官のみならず、循環調節のシグナル、すなわちNa利尿ペプチド (NP) を分泌する内分泌器官としても機能していることが明らかにされている。NPには心臓から分泌されるANP、脳性Na利尿ペプチド (brain natriuretic peptid; BNP) および神経ペプチドであるCNPがあり、Na利尿ペプチドファミリーと総称する。Na利尿ペプチドは腎臓においてはNa利尿、レニン分泌の抑制、副腎ではアルドステロン分泌抑制、血管壁では血管拡張作用、脳内では飲水行動、食塩嗜好性の抑制を占めし、レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系やバソプレッシン系拮抗的に作用する。BNPは主に心室から分泌されるホルモンで32個のアミノ酸からなる。心血行動態的負荷、特に心室負荷が主要な産生、分泌刺激となる。心筋障害や心筋負荷を呈する各種疾患、腎疾患において血中濃度が増加する。これらは病態の把握、重症度の非侵襲的バイオマーカーとしてきわめて有用である。BNPは心筋細胞のストレスを反映するマーカーとして、心不全の診断、重症度評価、治療効果判定、予後予測ならびに潜在性心不全のスクリーニングに、日常臨床で現在最も汎用されている。

異常値を示す病態・疾患

高値：慢性心不全、慢性腎不全、本態性高血圧症、心筋症、心肥大、急性心筋梗塞

関連項目

腎機能検査、心エコー検査、運動負荷検査

参考文献

試薬添付文書
臨床検査法提要改訂第34版
臨床検査項目辞典(医歯薬出版株式会社)

変更履歴

2016年2月29日	測定機器変更
2016年4月1日	平成28年4月診療報酬改定
2017年7月1日	外来迅速加算項目の訂正
2019年6月1日	電子カルテ更新のため
2020年7月1日	令和2年4月診療報酬改定

URL